

コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* Temminck

【選定理由】

日本の特産種で全国的には分布が広いが、県内での分布は比較的狭い。本種は洞穴性コウモリであり、冬眠や出産に使用できる適切な洞穴の条件が制限されていると考えられる。こうした洞穴の消滅や適当な採餌場所の不足が個体群の維持を困難にさせていると考えられる。

【形態】

体重 4.5~9.0g、頭胴長 31.5~50.0mm、前腕長 36~44mm、尾長 16~27mm、脛骨長 16.5~18.0mm、後足長 (爪を含む) 8.0~9.5mm、耳介長 14~19mm、頭骨最大長 14.8~17.5mm。キクガシラコウモリと同様の鼻葉をもつが、はるかに小型。鼻葉は前葉が小さく、中央突起が高く横からみると先端が細く尖っている。骨口蓋後縁は正中中部が後方に突出している。歯式は I1/2, C1/1, P2/3, M3/3=32、脊柱式は C7+T12+L5+S5+Cd8~10=37~39 (子安・織田, 2009 など)。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山市、瀬戸市、長久手市、豊田市、設楽町、豊根村、東栄町、新城市、豊橋市 (宮尾ほか, 1984; 原田, 1989; 子安・織田, 2009; 寺西, 2016; 子安ほか, 2016; 子安, 2018)。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、奥尻島、伊豆大島、三宅島、新島、御蔵島、八丈島、佐渡島、対馬、壱岐島、福江島、屋久島、種子島、口永良部島、口之島、中之島、奄美大島、加計呂麻島、徳之島、沖永良部島 (Sano, & Armstrong, 2015)。

【世界の分布】

日本固有種 (Sano, & Armstrong, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

洞穴性のコウモリで、昼間は数十頭から百頭を越える群で休息する。冬期には定まった冬眠洞で数頭から千頭を越える群で冬眠する。日が暮れてから出洞して採餌するが、真夜中には休憩する。食物は主として小型の飛翔性昆虫で、水面や地面すれすれの場所で採餌する。雌は生後 3 年から繁殖し、初夏に特定の洞穴で 1 仔を産む。仔は約 25 日で飛翔可能になる (子安・織田, 2009 など)。

【現在の生息状況／減少の要因】

森林の大面积伐採とその後の単一樹種の植栽が生活場所である森林内の生物多様性を低下させ、可能な採食場所を減少させていると考えられる。さらに、出産や冬眠に使用可能な適切な洞穴の消滅や洞穴環境の悪化のために個体数が減少していると考えられる。キクガシラコウモリが洞穴の比較的口に近い部分を利用するのに対してコキクガシラコウモリは洞穴の深部を利用するのが普通であり (阿部, 2000)、このことが本種の利用可能な洞穴をさらに減少させていると考えられる。

【保全上の留意点】

1 年を通じて冬眠洞、出産・育仔洞、春と秋のねぐら洞が必要であるのはキクガシラコウモリと同様である。こうした洞穴の破壊や環境悪化をもたらす開発や洞穴の荒廃・攪乱を避けなければならない。特に出産・育仔洞や冬眠洞の周辺においては森林ならびに河川周辺の環境を本種の生息が可能であるように保全しなければならない。また、本種の生息する洞穴に柵を設けて人の出入りを制限する際には、横棒を主体とする柵にしてコウモリの出入りを可能にしなければならない。

【特記事項】

県内の分布地のうち、設楽町津具地域、豊橋市、犬山市、瀬戸市については寺西敏夫氏ほかの実地調査によって確認されている。豊根村については原田 (1989)、設楽町と豊田市については宮尾ほか (1984) による。新城市鳳来地域については愛知教育大学に標本が存在した (子安・織田, 2009)。近年、豊田市の分布情報が詳しく調べられ、広い分布が確認された (子安ほか, 2016; 子安, 2018)。

【引用文献】

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
原田猪津男, 1989. ほ乳類. 豊根村誌, pp.33-38. 豊根村, 愛知県北設楽郡豊根村.
子安和弘, 2018. 人家から奥山まで生息する哺乳類. 新修豊田市史 別編 自然, pp.586-603. 豊田市, 豊田.
子安和弘・織田銃一, 2009. コキクガシラコウモリ. レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.85. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝, 2016. 哺乳類. 豊田市生物調査報告書<分冊その 3>, pp.337-367. 豊田市, 豊田.
宮尾嶺雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
Sano, A. & Armstrong, K.N. 2015. *Rhinolophus cornutus* Temminck, 1834. The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.61-62. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
寺西敏夫, 2016. 愛知県におけるコウモリ相と生息実態. NPO 法人東洋蝙蝠研究所 2016 年度研究会抄録 (自刊).

(子安和弘・織田銃一)